International Society for Korean Studies

コリアン スタディーズ

2023 第11号

論考

特集「MZ世代の登場と変わりゆく韓国社会」

序

「MZ 世代の登場と変わりゆく韓国社会」に寄せて

鄭雅英

分断体制の再生産と分断暴力の内部化、平和構築の方向

金成珉鄭大珍

MZ世代の登場と韓国社会の変化:統一論議を中心に 韓国 MZ 世代とフェミニズム運動:

佐藤雪絵

オンラインからオフラインへの拡大と深化する政治的対立

投稿論文

1968年前後のフォーク・ソングにおける「民衆」の一国主義的限界からの脱却

孫長熙

一大島渚の『日本春歌考』と『帰って来たヨッパライ』を中心に

研究ノート

ソ連崩壊後のサハリン朝鮮人

ユリア・ディン・宋恵媛・天野尚樹

アジアへ移動するトランスナショナルな教育消費者

李定恩

一フィリピンの韓国系英語学校の韓国人留学生の事例を中心に

書評

廣瀬陽一『中野重治と朝鮮問題─連帯の神話を超えて』

影本剛

山本かほり『在日朝鮮人を生きる一〈祖国〉〈民族〉そして日本社会の眼差しの中で』

韓光勲

李眞恵 『二つのアジアを生きる―カザフスタンにおける民族問題と

姜信和

高麗人(コリョ・サラム)ディアスポラの文化変容』

金泰植

「朝鮮らしさ」を取り巻く文化政治―梁仁實『朝鮮映画の時代』 外村大編『和解をめぐる市民運動の取り組み―その意義と課題』

鄭栄鎭

国際高麗学会 日本支部

Korean Studies Vol.11 2023

eature Articles:MZ Generation Appearance and Changes in Korea Society
oreword ······Chung Ah Young
eproduction of the Division System, Internalization of Division Violence, and he Pathway to Peace ······KIM SUNG MIN
IZ Generation Appearance and Changes in Korean Society Focusing on the Unification Discussion · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
ender, Political Conflicts, and Korean MZ Generation A Key to Overcome the Dichotomy of "Misogyny vs. Misandry" · · · · · · · · · · · · Yukie Sato
rticles
eparture From The Nationalistic Limitation Of Minshū Of Folk Songs Around 1968 -Focusing On Ōshima Nagisa's A Treatise on Japanese Bawdy Songs nd Three Resurrected Drunkards ····································
esearch notes
he Sakhalin Koreans after the Collapse of the Soviet Union $\cdots\cdots$ Yulia Din $ullet$ Hyewon Song $ullet$ Amano Naok
ransnational Education Consumer in Asia a Case of South Korean Students in the Philippines ···············LEE, Jung-Eur

Book review

Published by the Japan Branch of International Society for Korean Studies 4-5-5-06, Nishitenma, Kita-ku, Osaka, Japan

頒価:1000円(税込)

学会誌 コリアン・スタディーズ 第11号 目次

論考	
特集「MZ世代の登場と変わりゆく韓国社会」	
序	
「MZ 世代の登場と変わりゆく韓国社会」に寄せて ・・・・・・・・・・ 鄭雅英	1
分断体制の再生産と分断暴力の内部化、平和構築の方向 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・金成珉	3
MZ世代の登場と韓国社会の変化:統一論議を中心に・・・・・・・・・・・ 鄭大珍	9
韓国 MZ 世代とフェミニズム運動:オンラインからオフラインへの拡大と深化する政治的対立・・・・ 佐藤雪絵	19
投稿論文	
1968年前後のフォーク・ソングにおける「民衆」の一国主義的限界からの脱却 · · · · · · · · · 孫長熙 一大島渚の『日本春歌考』と『帰って来たヨッパライ』を中心に	31
研究ノート	
ソ連崩壊後のサハリン朝鮮人・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	45
アジアへ移動するトランスナショナルな教育消費者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	. 64
書評	
廣瀬陽一『中野重治と朝鮮問題―連帯の神話を超えて』 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 76
山本かほり『在日朝鮮人を生きる ―〈祖国〉〈民族〉そして日本社会の眼差しの中で』・・・・・・・・韓光勲	! 78
李真恵 『二つのアジアを生きる―カザフスタンにおける民族問題と ・・・・・・・・・・・ 姜信和高麗人(コリョ・サラム)ディアスポラの文化変容』	82
「朝鮮らしさ」を取り巻く文化政治―梁仁實『朝鮮映画の時代』・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	87
外村大編『和解をめぐる市民運動の取り組み―その意義と課題』・・・・・・・・ 鄭栄鎭	89
国際高麗学会日本支部 2022 年度学会活動 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	93
東京都に関東大震災時の朝鮮人虐殺の史実の認定を求める声明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	95
『コリアン・スタディーズ』投稿規定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	96
『コリアン・スタディーズ』執筆規定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	97
短隹 然 却, 喇 什	or Or

国際高麗学会日本支部 2022 年度 学会活動

●国際高麗学会日本支部 第26回学術大会

日 時:2022年6月11日(土)10:00~17:00 会 場:大阪教育大学天王寺キャンパス+オンライン

【第一部】10:00~11:30

◎自由論題報告

- 1. 任正爀(朝鮮大学校)「朝窒コンツェルンの評価に関する研究史的考察 ―書籍を中心にして―」
- 2. 崔正勲(立命館大学)「核革命以後における緩衝システム理論の模索 ―北朝鮮の核兵器高度化を事例として― |
- 3. 平田絵未(大谷大学)「日本における朝鮮語教科書の変遷 ―音韻·音声的項目を中心に―」 司会:金友子(立命館大学)
- ◎第16回 理事会 11:30~12:30
- ◎第26回 総会 12:30~13:00

【第二部】13:00~17:00

シンポジウム「MZ 世代の登場と変わりゆく韓国社会」

[基調講演]

鄭大珍(韓国・原州漢拏大学校)「MZ세대 등장 및 통일 평화 논의의 변화」 [パネリスト報告]

福島みのり(名古屋外国語大学)「MZ 世代の他者へのまなざし ―「個人化」からみる「南北統一」「不買運動 |「反日と嫌韓 |「退社 |― |

堀山明子(毎日新聞)「性平等と徴兵制の狭間で揺れる 20 代の政治意識 ―ポスト民主化世代が 直面するジレンマとして―」

〔総括コメント〕

金成珉(ソウル支部会長、韓国・建国大学校)

司会:鄭雅英(日本支部会長、立命館大学)

人文社会研究部会

第100回人文社会研究部会

日 時:2022年10月16日(日)15:00~16:30

会 場:立命館大学大阪いばらきキャンパス+オンライン

タイトル:植民地研究の矢内原忠雄と、その戦後

講師:田中宏(一橋大学)

第101回人文社会研究部会

日 時:12月18日(日)15:00~17:00(非公開) 会 場: 立命館大学大阪いばらきキャンパス

タイトル「コリョ・サラム(高麗人)を考える:移住と定着の歴史と最新の研究課題 |

講 師:李眞恵(立命館大学 OIC 総合研究機構 専門研究員)

科学技術研究部会

第83回科学技術研究部会

日 時:2022年8月27日(土) 16:00~

会 場:AP大阪茶屋町

報告者:許翔字

タイトル:自動車産業における「CASE |変化 一電動化を中心に一

●第84回科学技術研究部会・第102回人文社会研究部会合同研究会

日 時:3月18日(日)14:00~

会 場:大阪公立大学梅田サテライト+オンライン

タイトル「朝鮮映画のなかのチョウセンらしさとは何か |

講師:梁仁實(岩手大学)

タイトル「万能薬の開発」「人間よ、犬に負けるな!―ガン探知犬の話」

講 師:蔡徳七(大阪大学)

国際高麗学会日本支部臨時理事会

日時: 2023年3月21日(火)15:00~

会場:オンライン

議題:東京都に対する声明文の発出について

東京都に関東大震災時の朝鮮人虐殺の史実の認定を求める声明

2023年3月21日

東京都知事 小池百合子 殿

国際高麗学会 日本支部 会長 伊地知紀子



新聞報道によりますと、小池百合子東京都知事は、関東大震災後に殺された朝鮮人犠牲者の追悼式典に対して追悼文の送付を 2017 年以降、行っておらず、その史実があったかどうかについて「歴史家がひもとくもの」と述べ、見解を明らかにしない姿勢をとっております。このような中で、昨年、戦前の精神病院に入院していた朝鮮人の記録をもとにした映像作品を都の施設で上映しようとした企画が実現できない事態が引き起こされました。この作品では、時代状況についての解説として、関東大震災後に、無実の朝鮮人が相当数殺されたという史実を歴史研究者が述べている場面があります。企画が進行している中で、東京都総務局人権部の職員は、これを理由に上映に懸念を示すメールを送っており、そこでは、小池都知事の前述のような態度があることについても触れていたことが明らかになっています。つまりは、小池都知事が関東大震災時の朝鮮人虐殺の史実について述べないことが、こうした検閲のような事態を引き起こしたと考えられます。

私たちは、このことについて重大な問題があると考えています。

まず、関東大震災時に朝鮮人暴動のデマを信じた日本人によって多数の朝鮮人が殺されたことは、否定できない事実です。これについては当時生きていた人が語り伝えてきただけでなく歴史研究でも定説となり、再びこのようなことを繰り返さぬよう、義務教育でも教えられています。

にもかかわらず、今回の東京都の対応は、朝鮮人虐殺はなかったという認識や、朝鮮人の側に も殺されるような理由があったのではないかという憶測を喚起します。そのことは、朝鮮人虐殺 事件の史実を語ることや、その犠牲者を追悼することを困難にするだけでなく、朝鮮人・韓国人 への偏見を助長することにもつながります。

また、表現活動は、それが他者の人権を侵害する恐れがないかぎり、自由であるべきで、芸術作品について、その内容を問題にして公共機関が公開をやめさせるような態度をとることは許されません。そして、研究者の間で確定した、かつ差別や偏見の問題を考えるうえで極めて重要な史実を述べること自体を、都職員が問題視したことは、都の施策において人権尊重が重視されていないのではないかという疑問をいだかせます。

以上のようなことから、私たちは、東京都が、関東大震災直後の朝鮮人虐殺の史実を認めることと、その上で問題となっている映像作品の上映を認めることを求めます。

国際高麗学会日本支部学会誌『コリアン・スタディーズ』 投稿規定

1. 投稿資格

国際高麗学会日本支部は、学会誌『コリアン・スタディーズ』を年1回発行する。掲載される原稿は、朝鮮半島および朝鮮民族に関するあらゆる分野の学術的な論文、研究ノート、書評論文、キルチャビ、書評である。論文、研究ノートについては、国際高麗学会日本支部会員は自由に投稿できる。投稿については、寄稿規定並びに執筆規定を熟読すること。ただし、当該年度までの会費納入を要する。投稿論文は常時受け付ける。また、編集委員会で企画する特集については、非会員にも寄稿を依頼することがある。

2. 各論文の種別

- a. 論考:編集委員会で決定した特集テーマにより、編集委員会からの依頼によって執筆されたもの。
- b. 投稿論文:研究の対象・方法あるいは結果に独創性や新規性を有し、既存の研究・学術知に対し新たな知見を示し、「コリア学」の発展に期するもの。掲載にあたっては査読を要する。なお、査読の結果、「研究ノート」としての掲載を求めることがある。
- c. 研究ノート: 研究の中間報告の水準であるもの。あるいは、独自の学術研究、調査、事例などをまとめたもの。掲載にあたっては査読を要する。
- d. キルチャビ:独自の学術研究、調査、事例などをまとめ、独創性、有用性などから会員が広く関心を持つと思われるもの。
- e. 寄稿:上記に含まれないが、編集委員会が掲載を認めたもの。

3. 投稿条件

投稿される原稿は、未発表の書き下ろし原稿のみとする。同一原稿を『コリアン・スタディーズ』以外 に同時に投稿することはできない。

4. 審查

寄稿された原稿を掲載するか否かは、別途定める査読規定に基づいて編集委員会で審査の上決定する。

5. 使用言語

本文は日本語のみとし、注および参照文献に限り外国語を使用できる。要旨およびキーワードは日本語および英語とする。

6. 枚数

原稿枚数は400字詰め原稿用紙換算で50枚以内とし、本文(タイトル、氏名含む)、注、参照文献、図表を含めたものとする。論文には、日本語要旨、英語要旨およびキーワード(日本語および英語)を付けることとする。ただし、いずれも枚数には含まない。枚数を超過した場合、審査対象としないこともあるので、下記を確認すること。

論文 50枚以内+日本語要旨 $(400\sim800$ 字)、英語要旨 $(800\sim1000$ 語)+キーワード(日本語および英語)研究ノート 50枚以内

キルチャビ 20枚以内

書評 5~15枚

7. 投稿形式

投稿は原則として電子文書とし、マイクロソフト・ワード形式かリッチテキスト形式で作成したものを 投稿規定10にある提出先のE-mailアドレスに送付すること。図表や写真は可能な限り本文中に挿入するこ と。マイクロソフト・ワード形式かリッチテキスト形式以外での提出については、投稿規定10にある問い 合わせ先に連絡すること。必要に応じて印刷された原稿の郵送を求めることがある。

8. 校正

校正は原則として著者校正のみで、内容のみならず、投稿規定および執筆規定に則った形式に訂正することも校正作業に含まれる。審査により採用決定となった後に行われる初校段階での誤植以外の修正は原則として認めない。なお、再校は初校段階の訂正を確認するだけの作業となる。

9. 原稿の保管

投稿原稿の保管や取り扱いについては編集委員会が責任を負う。

10. 提出先および問い合わせ

投稿原稿の提出および問い合わせ先は以下のとおり。

国際高麗学会 日本支部事務局 E-mail isksi@isks.org

また、執筆申込書、執筆規定等は以下に掲載する。

『コリアン・スタディーズ』 Webサイト: https://isks.org/japan/koreanstudies

11. 著作権

投稿された原稿の著作権は国際高麗学会日本支部に所属するが、原著者が『コリアン・スタディーズ』 に掲載された当該論文を自著作の単行本や論文集に再掲載することは妨げない。

12. オンラインでの公開について

『コリアンスタディーズ』は、学会ホームページ(https://isks.org/japan/koreanstudies)上でオープンアクセスにて公開する。執筆者は、そのことを承諾のうえで投稿すること。

(2022年6月2日)

国際高麗学会日本支部学会誌『コリアン・スタディーズ』執筆規定 2020年6月19日一部改訂

1 本文

- (1) 基本用語
 - a. 原稿は日本語、横書きとする。図表や図版は原稿本文に組み込み、紙幅の制限内に含める。
 - b. 朝鮮、中国に関わる人名・地名は漢字(日本の現代漢字も可)で表記し、漢字不明の場合はカタカナ表記とする。欧米由来の度量衡はカタカナ表記とする。
- (2)数字
 - a. 数字はアラビア表記を原則とし、場合に応じて漢数詞を用いる。
 - b. 年号は西暦を用い、国家・地域固有の年号を使用する際は西暦を()で付記する。
- (3) 見出し
 - a. 章はアラビア数字で1.2.3・・・と表す。「はじめに」と「おわりに」(あるいはそれ等に該当する 見出し)にも数字を振る。「はじめに」は1とする。
 - b. 章以下の節は(1)、(2)、(3)の順で表す。
 - c. 節以下の項はa、b、cの順で表す。

(例)

第1章⇒1、第1節⇒(1)、第1項⇒a

2. キーワード

論文、研究ノートには日英5 語以内でキーワードを付けること。キーワード間は読点ではなくコンマを入れること。

3. 文献引用

(1)本文や注、図表で文献を表記する際は、編著者の姓(刊行年:ページ)のみ表記し、文献の詳細は参照文献 リストに表示する。朝鮮人の名は姓名とも表記する。編著者名が付いていない刊行物の場合は、発行機関名を

表記する。

(例) 文献全体を示す場合

鈴木[2005], 朴統一[2011]によれば・・・

文献の一部を示す場合

- …投票率は低かったとされる[キムハヌル 2012: 11-13]。
- (2)2度目以降の引用でも前掲書・前掲論文、同上書・同上論文などの用語は使用せず、上記(1)のように表記する。
- (3)新聞・雑誌記事や社説の場合は本文・注・図表に新聞・雑誌名、発行年月日を記した上で、参考文献 リストに新聞・雑誌名を入れる。

(例)

- …保守言論による歪曲は深刻である「『月刊朝中東』2001年1月]。
- …と指導者は発言している[『労働新聞』2012 年 4 月 16 日]。

4. 注

- (1)注は、本文の内容について文脈上の解説や言及をする必要がある場合に用いる。
- (2) すべて文末注とし、片カッコ付アラビア数字で表示する。

 $(例)(1)(2)(3) \cdot \cdot \cdot$

5. 図表

- (1) 図表のタイトルは、図の場合は図の下に、表の場合は表の上に付ける。
- (2) 刷り上がり 1/2 ページ大の場合は 500 字分、刷り上がり 1/4 ページ大の場合は 250 字分として換算する。

6. 参照文献

- (1)本文、注記、図表で用いたすべての文献を「参照文献」として本文の最後に一括して表示する。参照文献とは、 本文中または注において引用した文献を指す。
- (2) 文献リストは言語ごとに分け、日本語文献は著者名の50音順、韓国・朝鮮語文献は著者名のカナダラ順などに並べる。
- (3) 参照文献については、著者名・(刊行年)・書名・号数(発行年月日を入れてもよい)・発行所・頁等で示す。 筆者名のある新聞・雑誌記事は雑誌論文と同様に表記し、発行年月日も記入する。
- (4) 英文文献の場合、書名はイタリックで表記する。論文名は単行本所収か雑誌所収かに関わらず一律クォーテーション・マークで括る。

(例)

単行本の場合

- ・朴一(2005)『朝鮮半島を見る眼-「親日と反日」「親米と反米」の構図』藤原書店、pp.123-125.
- ·이광우(2004)『신경과학』범문사, pp.153.
- · Kim, L. (1997). Imitation to Innovation: The Dynamics of Korea's Technological Learning. Boston: Harvard Business School Press.

論文の場合

- ・文京洙(2005)「戦後 60 年と在日朝鮮人 " 国民 " の呪縛を超えて」 『思想』 No.980、 岩波書店、pp.8-9.
- ·김신일(1991) [교육자치의 당위성과 현실] 『교육학연구』 Vol21, 교육출판, pp.11-18.
- · Min, Pyong Gap. (2001). "Koreans in New York: An 'Institutionally Complete' Community." New Immigrants in New York, edited by Nancy Foner, New York: Columbia University Press, pp.173-200.
- · Koh, Y.S. (2008). "Financial and Corporate Reform in Korea: Survival Strategies of the Korean "Chaebols", Asian Studies, 54(2), pp.71-88.

7. 論文タイトル

日本語および英語でつけること。

編集後記

『コリアン・スタディーズ』は今号よりオンラインでの発行となりました。これまで紙媒体でお届けしていましたが、オンラインでのお届けとなります。紙媒体での発行、オンライン・PDFでの発行はいずれも一長一短がありますが、ネットにつながってさえいればPCやタブレット、スマホなどどこからでもアクセスできるのが最大のメリットではないでしょうか。これまで同様、『コリアン・スタディーズ』をよろしくお願いいたします。

紙を印刷する必要がなくなることで発行までの時間も 短縮され、しめきりにも少しばかし余裕ができました。ただ、原稿を集める手間はかわりません。編集委員一同 でこれまで同様にメールやLINEで地道にやっていて、 デジタルを活用しつつも結局はアナログ的な感じです。 これがもっと簡潔に集まる方法があればよいとは思いな がらも、なんとか発行へとたどり着くことができました。 原稿をお寄せいただいたみなさん、翻訳でご尽力いた だいたみなさんにあらためてお礼申し上げます。

今号は、学術大会をもとにした特集と、投稿論文、研究ノートで紙面を構成しています。次号12号の投稿 しめきりは9月末日の予定です。多くの投稿をお待ちして おります。

(鄭栄鎭)

孫片田晶

鄭栄鎭(編集委員長) 文京洙 高正子 朴一 鄭雅徳七 蔡光雄 伊地知紀至 全ウンフィ 洪ジョンウン 岡崎享子

『コリアン・スタディーズ』編集委員

コリアン・スタディーズ

第11号

Korean Studies No.11

2023年6月1日発行

編集·発行団体 国際高麗学会日本支部

〒530-0047

大阪市北区西天満4丁目5-5

マーキス梅田506号

TEL 06-6314-3775 FAX 06-7660-7980

E-mail isksj@isks.org

発行者 国際高麗学会日本支部会長 伊地知紀子 編集代表者 鄭栄鎭

装丁 金文男

製作 ハンマウム出版